

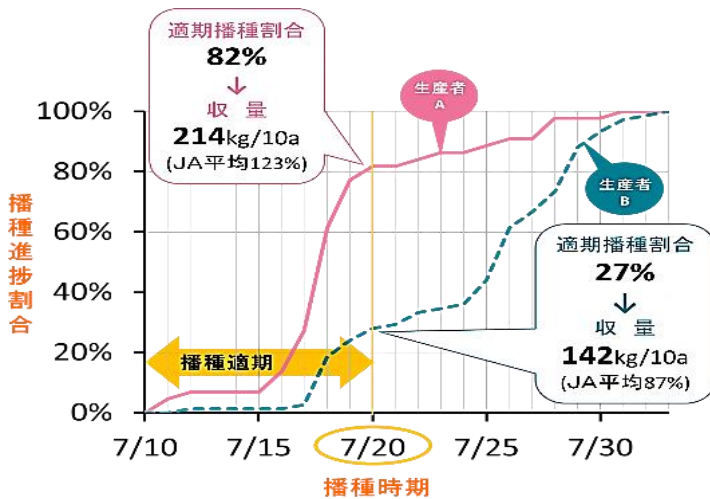
関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手サポートセンター)
(公 印 省 略)

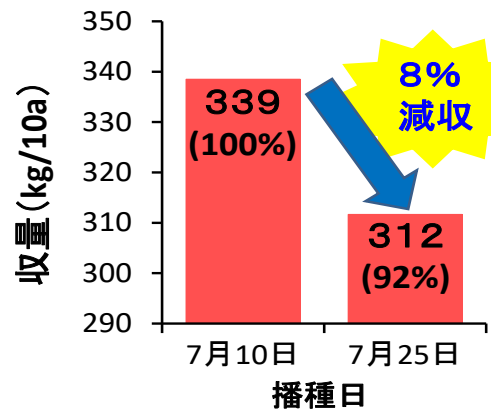
営農情報 3

大豆の収量向上のために「適期・適正播種」を

大豆の収量向上には、「適期・適正播種」を行うことが重要です。
7月上旬は晴れや曇りが多い予報となっています。早めに準備を行い、
適期である7月20日までに播種が完了するように作業計画を立てましょう。
また、播種時期に応じて播種量を加減し、適正播種に努めましょう。



播種日による収量の違い(10年平均)



(農林業総合試験場データ編集)

適期に播種を完了するために

- ① 播種近くまで耕起しない。但し、残存雑草対策に留意する。
- ② 適度な土壌条件となったら、速やかに播く。
- ③ 二工程播種の耕起～播種は、時間を置かず「組作業」で行う。
- ④ 部分浅耕等の一工程播種を活用する。

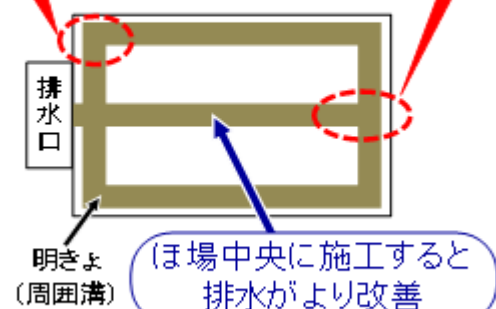
大豆栽培の留意事項

(1) 排水対策

- ・ 周囲溝、弾丸暗きよは早めに施工する。(排水効果は、暗きよより周囲溝の方が高い。)
- ・ ほ場中央にも明きよを施工すると、排水はより改善される。
- ・ 周囲溝や明きよは確実に排水口に接続するよう施工する。

周囲溝・明きよ施工時の注意点

確実に排水口に接続する！
(接続していないと排水効果が劣る)



(2) 土づくり対策

- ・大豆作付頻度が高まるほど、地力低下や土壌が硬くなる傾向があるため、「麦わらすき込み」や堆肥投入で地力低下を緩和する。
- ・やわらかい土づくりにより根粒菌の活性が高まり、大豆の生育も良好になる。

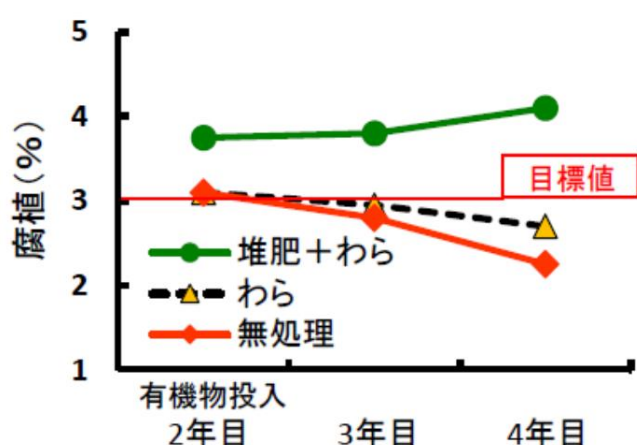


図 有機物の毎年投入による腐植の変化
(福岡県農林業総合試験場)

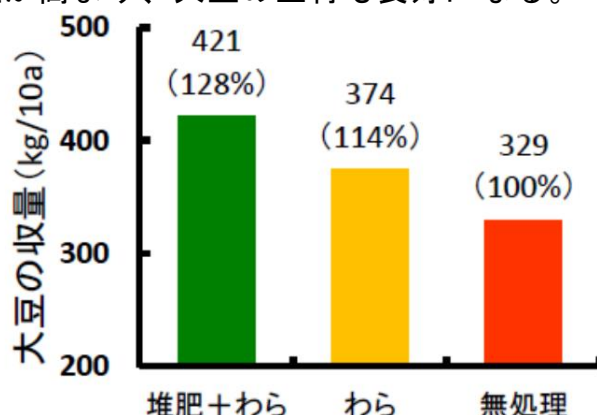


図 施用した有機物の違いによる大豆の収量差
※大豆-麦連作ほ場に5年連続で施用した場合
(福岡県農林業総合試験場)

(3) 種子消毒の励行

- ・栽培暦の薬剤を参考にして必ず実施する（紫斑病対策、出芽時の腐敗防止）。

(4) 播種のポイント

- ・梅雨時期の播種は、うね立て播種を基本とする。
- ・播種時期が遅くなるほど、株間を狭く播種量を増やし、出芽本数を確保する。（必ず、播種量の調整を実施する。）

播種時期		7月1～10日	7月11～20日	7月21～31日
10a当たりの播種量 (kg)		3～4	4～6	8
目安	条間 (cm)	70	70	70
	株間 (cm)	25	20	15

- ・土壌の水分条件や播種後の天気予報に応じて、播種の深さ、鎮圧を調整する。

基準	土壌が乾いている場合 (梅雨明け後等、しばらく降雨がない天気予報)
3cm	基準よりやや深く (5～6cm) + 鎮圧 (麦用の鎮圧ローラー活用)

(5) 雑草対策の徹底

- ・土壌処理除草剤は「播種後～大豆出芽前」に必ず散布する。
- ・雑草が多いほ場は、播種前に非選択性の茎葉処理除草剤を散布する（特に周辺作物への飛散に注意）。
- ・播種が早いほ場は、雑草の発生時期も早いため、除草時期に注意する。

(6) 梅雨明け後の乾燥対策

- ・梅雨明け後、天気予報でしばらく降雨がない場合は、本暗きよの栓を閉めて、乾燥害を防ぐ。